

サポーターカンファレンス(第2回)開催報告

栃木SCは、2025年9月13日に第2回サポーターカンファレンス開催いたしました。クラブ名称と練習環境整備について理由や背景を深める対話の場として実施し、会場での自由発言・質疑応答は匿名化し、当日のスライドに沿う形で構成しています。

本開催報告では、発言者を以下のように表記しております。

【クラブ】: クラブ側の発言

【会場】: 参加者の皆さまからのご意見・ご質問

開催の位置づけと進め方

【クラブ】第1回サポーターカンファレンスは、クラブ名称に関するクラブ側の説明を中心に実施しました。その際、「第2回は第1回の説明を受けて、クラブ名称について参加者の皆さまからご意見・ご質問をいただく場とする」ことをあらかじめお伝えしていました。第2回となる今回は、その予定どおりクラブ名称に関する対話(意見・質疑)を主題とし、会場では挙手と匿名アンケートで温度感を把握し、自由発言で意見と質疑を受け付けました。あわせて練習環境整備は進捗報告を簡潔に共有しました。

I 名称に関する件

1. 第1回の振り返り

概要

【クラブ】2019年には名称公募まで進めましたが、その年の戦績対応と翌年のコロナ禍を踏まえ議論を凍結しました。その後も再開に関するお問い合わせは続き、情報発信が十分でなかったことで誤解を招いた面もありました。背景として、愛称導入や地域名を含む名称への要望、県内外企業からの名称に関するご意見やご質問といった声がありました。活動・支援の中心が宇都宮市である一方、名称に「宇都宮」が含まれていない現状についても説明いたしました。

再議論の理由と現在の課題認識

【クラブ】営業面の課題は継続しており、自治体協議(特に宇都宮市)でも名称に「宇都宮」が入っていないことの影響を感じる場面がありました。特定の不支援を意味するものではなく、認知や巻き込みの温度差があるという認識です。名称に「宇都宮」を含めることで認知や拠点性の理解が進む可能性があります。複数ホームタウン登録との整合を取りつつ、他自治体との連携拡大の可能性も説明いたしました。

ステークホルダーの声

【クラブ】2019年時点のファン・サポーターの意見は賛否がほぼ半々でした。スポンサー企業は愛称導入に前向きな声が多い一方、地域名の扱いは企業ごとに温度差があります。JリーグID登録を見ると宇都宮市在住者が多いものの、県外の支持も多数あります。なお、名称を変えれば収入が増えると確証されているわけではありません。スポンサー営業の場で名称に関する質問や指摘が長年続いているという点をあらためて共有しました。

判断にあたっての考慮事項

【クラブ】地域連携(宇都宮との協働、県全体・自治体間の調和)、スポンサー計画、ファン共同体の分断回避と丁寧なプロセス、ブランド資産の継承(歴史・認知)、運用のわかりやすさ、実務要件(コスト、スケジュール、Jリーグ規定)を総合的に考慮します。

2. 会場アンケートと自由発言(意見・Q&A)

本日の意見収集の方法と場内の反応

【クラブ】挙手で「現状の“栃木”のまま」「“宇都宮”を入れる」「判断保留」の温度感を把握しました。相対的には「“宇都宮”を入れる」→「現状の“栃木”のまま」→「判断保留」の順でした。匿名アンケート結果を共有し、自由発言で質疑応答と意見を伺いました。

名称に地域名(宇都宮等)を入れる是非と理由

【会場】「“宇都宮”を入れた方がよい」という意見が比較的多く挙がりました。

【会場】「栃木シティ」さんとの区別・認知の観点で差別化が必要という声がありました。

【会場】「東京に行くと“栃木FC”と言われる」といった認知の混乱も指摘され、覚えやすい名称や愛称の採用を求める意見がありました。

【会場】「“宇都宮”と“栃木”を両方入れると長くなるのでは」という指摘があり、発音しやすさにも配慮すべきとの声がありました。

ホームタウン登録のメリットと拡張

【クラブ】Jリーグのホームタウン登録における自治体側のメリットについて説明しました。

【会場】スポンサー・自治体・サポーター視点の整理が不足しているのではという指摘がありました。

【会場】メリット・デメリットの整理が必要で、「名称を変えてもスポンサー収入は大きく変わらないのでは」という懸念が共有されました。

【会場】「サポーター／クラブ／スポンサー／自治体」の各視点での検討と、経済効果の判断基準の明確化を求める意見がありました。

費用対効果と実務的コスト

【クラブ】2019年の試算では、名称・ロゴ・エンブレム変更に多額の初期費用が想定されました。バスのラッピングやユニフォームの発注タイミング(シーズン途中の変更不可)など周辺コストや運用制約も大きく、段階的移行という手法も検討していました。

【会場】「多額の費用をかけるなら、名称変更より選手獲得や環境整備を優先すべき」という意見が出ました。

他クラブ事例・宇都宮市との関係

【会場】宇都宮ブレックスさんの名称変更(宇都宮化)後の影響について、調査が必要ではないかという意見がありました。

愛称導入の賛否と差別化

【会場】「栃木シティ」さんとの明確な区別を求める一方、「なくても成り立たせることが重要」という意見もありました。

デザイン・ブランド要素への要望

【会場】「エンブレムをもう少しカッコよくしてほしい」との要望があり、名称の有無に関わらず、ブランド要素の見直しニーズが示されました。

【クラブ】「親しみやすいチーム名であってほしい」「なぜこの名称になったのかが伝わるように」というブランディング上の配慮が必要だと考えています。

決定プロセス

【クラブ】拙速な決定は避け、自治体・スポンサー・サポーターの皆さまのご意見を幅広く取りまとめます。クラブ内部のみで決めるのではなく、専門家の知見も取り入れ、適切なプロセス設計をおこなうべきだと考えています。名称変更する／しないも含め、仮に変更となった場合においても慎重に選定していくべきだと考えています。

地域名の取り扱いへの影響

【会場】自治体を巻き込むことによる資金面の効果が大きいという意見がありました。名称に自治体名を入れる効果は熟慮が必要ですが、検討価値は高いという提言がありました。

【会場】「名前が変わってもチームへの支持は続ける」という声も寄せられました。

スケジュールと実施時期

【クラブ】ご意見を踏まえ、今後は本件に関する計画やスケジュールを作成し、段取りをもって検討します。

【Q&A】「現社長在任中に名称変更を実施するのか」という確認に対し、社長は「やる・やらないはまだ決まっていません。在任中に実施する形になれば行いますが、在任中以外のことはわからないし、次の体制の判断になるのではないのでしょうか」と回答しました。

愛称(ニックネーム)重視の提案とファン獲得

【会場】地域名よりも、魅力ある愛称がファン獲得に有効だという意見が提示されました(他クラブの例が言及されました)。

ホームタウン・地域支援パートナーの範囲と運用

【クラブ】宇都宮を唯一のホームタウンとして重視しています。地域支援パートナー自治体との関係は、既存の協力関係を優先し、無理な拡大はしていません。名称に「宇都宮」を入れた場合、バランスが変わる可能性はありますが、確約はしていません。

最後に(クラブより)

【クラブ】「変えない」というよりは「変える」方向のご意見がやや多かった印象ですが、現時点で決定はしていません。やる・やらないを含めた今後のスケジュールは、ご意見のとおり作成し、適切な形でお示しする必要があると改めて感じました。地域名や愛称を変更したからといって経済的な影響が必ず出るとは限りませんし、経済性だけで判断するものでもありません。クラブの成り立ちや多様な視点のバランスを取りながら、簡単には結論を出せない案件であることをご理解ください。

Ⅱ 練習環境整備について

GROWTH PROJECT 概要

【クラブ】本プロジェクトは3つの事業で構成しています。

A: 施設基盤整備(ハード)...グラウンド・クラブハウス建設。

B: 地域共創推進(ソフト)...資金投入のプロセスを地域・ファンとの共創機会に転換(芝づくり参加、学習企画など)。

C: 地域連携発展(完成後)...拠点活用により既存活動の吸着と新たな政策・施策を、さくら市とともに推進します。

練習場の現況と利用開始見込み

【クラブ】グラウンドの引き渡しは10月中に予定しています。走行など軽いプレーは可能になる見込みですが、トップチームの高強度練習の本格対応は年末年始ごろを想定しています。

クラブハウス計画の状況

【クラブ】当初は設計・施工の分離発注で進めていましたが、予算と確保すべき面積の要件を踏まえ、8月中旬に方針を変更しました。施工方法や発注の間口を広げ、複数企業と協議しています。完成時期は当初「翌年7月」を見込んでいましたが、外部状況などにより遅延の可能性があります。資材・人件費の高騰が続くなかでも、妥協せずに“誇れる”クラブハウスの実現を目指し、価格上昇が進む前に見極めを急ぐ方針です。

練習環境の強みと運用上の補足

【クラブ】練習場のロケーションは景観が良く、集中できる静かな環境である点が強みです。試合日はクラブハウス集合ではなくスタジアム近隣に集合して移動する運用のため、距離による支障は小さい見込みです。

【会場】スタジアムからの距離や運用面についての懸念・ご意見もいただきました。今後の運用検討に活かしていきます。

Ⅲ その他の質疑応答

スタジアム施設駐車場とナイター開始時間

【会場】ナイター時の駐車料金設定により、試合後の余韻を楽しみにくいというご意見があり、来季のナイター開始時間を30分早める検討要望が出ました。

【クラブ】開始時間は暑熱対策(19時開始)などチーム事情もあり、即答はできません。県営施設に関する事項は、県への要望としてお寄せいただけると助かります。

シーズン目標と検証

【会場】今季「優勝してJ2へ」という目標を下方修正したことへの指摘、シーズン終了後には原因検証をしっかりと行うべきとの要望がありました。

【クラブ】シーズン終了後に総括として原因分析を実施いたします。

練習環境と選手獲得

【会場】新練習場(芝生)の定着状況を踏まえ、他クラブに対するアドバンテージがあるのかという問い、また「練習場がないことが断られる理由」になるという発言の真意を再確認する声がありました。

【クラブ】練習場だけが原因ではありませんが、練習環境を指摘されるケースは実際にあります。選手獲得・残留の判断要因はいくつかあり、練習環境はその一要素です。

途中加入選手の活躍・残留見通し

【会場】途中加入選手の活躍について、加入理由や残留見通しの確認がありました。

【クラブ】「栃木でやりたい」「小林監督の下で」という前向きな動機があったとの報告をもらっています。これまで取り組んできた、サッカースタイルや選手の役割を明確に伝えることが形になってきた手応えもあります。期限付き移籍が多い点への不安は承知しており、来季は未定ですが、残ってほしい選手の残留に最大限努めます。

現状のチーム状況

【クラブ】直近は良い流れもありますが、数的有利直後の失点など不安定さは残っています。リーグ戦は残り12試合です。最後まで共に戦っていただけるよう、引き続きの応援をお願いいたします。

注記・公開方針

- 本記事は2025年9月13日時点の内容を、当日のスライド構成に沿って整理したものです。以降の変更・追加情報は反映しておりません。
- 会場での自由発言・質疑は匿名化しています。
- 記載に誤りがある場合は、下記窓口までお知らせください。確認のうえ訂正いたします。

お問い合わせ

- クラブ公式お問い合わせフォーム: <https://form.run/@tochigiscinfo>

以上をもって、第2回サポーターカンファレンスの開催報告といたします。

引き続き、皆さまからのご意見を大切に、丁寧に検討を進めてまいります。